



読書界 1月号

「すぐに読める本」

『私の頭が正常であったなら』 山白 朝子

元夫の手によって愛娘を失ってしまった主人公。それをきっかけに精神を病んでしまった彼女は、実家での療養中に少女の声が聞こえるようになる。不思議に思った彼女はその声の正体を探るため、家族に無断で家を飛び出す。その先で見つけたのは、一つ古びた家屋だった…。

「喪失」をテーマに描かれた表題作「私の頭が正常だったなら」を含む8作品が収録。登場人物たちの、そしてあなたの哀しみはどのように昇華されるのだろうか。

2-3 中西 美沙

『日本国紀』 百田 尚樹

ここではあえて物語ではない本を紹介したいと思う。『永遠の0』や『海賊と呼ばれた男』などで有名な百田尚樹が日本の歴史について独自の視点で書いた本だ。短いとは言えないが、小説ではないため、ストーリーや登場人物を細かく把握する必要がなく、歴史の授業で習っている言葉もあるので、個人的には簡単に読むことができた。一日で読むことは難しいが、比較的すぐに読めると思う。

賛否の分かれる本ではあるが、世の中に存在する考え方の一つを知るという意味でも、読んでみてはどうだろうか。

1-2 黒川 翔太郎

『5分後に感動のラスト』 「ビューティフル・ドリーマー」 藤燈 夜夏

短編の一つである「ビューティフル・ドリーマー」という話の中で、主人公が長期間の眠りについてしまう。初めは五日間だけだったが、眠るごとに期間が長くなっていく。あるとき目覚めると二百年が経っており、世界はAIに支配されていた。言語が変容され、基礎体力が落ち、歌うことさえできなくなった。私たちの未来はどうなるのだろうか。そんなことを考えさせられる。他にも感動する話がたくさんあるので、ちょっとした休みにぜひ読んでみてほしい。

1-8 鈴木 伶佳

『もっとすごい！10分間ミステリー』

海堂尊から柚月裕子や中山七里など『このミステリーがすごい！』大賞を受賞した作家31名の1作品10分で読み切れるミステリーを集めた、謎解きあり、ユーモアあり、サスペンスあり、ホラーありのどれもが楽しめる一冊である。短い時間に気になる話から読みはじめられるので、朝読書にもぴったり。この本を通して自分の好きな作家にも新しく出会えるかもしれない。ぜひ読んでみてはどうだろうか。

1-8 中村 幸愛